

- ちょっと小金原 #2 -

良い町、我が町。

小金原連合町会 会長

きむら まさお
木村 正男

松戸市民運動会が始ったのは昭和47年でした。市内12地区からの選手団による対抗形式で、中央会場は一中と相模台小に分れていました。老幼それぞれの部門がある中で、矢張り花形はリレーであり、綱引きだったと思います。第2、第3回と年毎に応援団など盛り上る中でツヒに、中央会場では捌き切れない状況となり、昭和50年度からは12地区それぞれの地区大会と看板を変えて今日に至っています。

小金原大会として第33回を数える本年ですが、振り返れば、この地域の区画整理事業が完成して入居が始ったのは昭和44年4月のこと。徐々に町会、自治会が組織される中、市民運動会への参加を機とする各町会役員の交流から、地元市議、渋谷新太郎氏を中心とする「連合町会」の誕生へと歴史は時を刻みました。そして今、「運動会を楽しむ」心と時間の共有は、拡がる地域交流として実を結び、「向こう三軒両隣”のご近所意識と相俟って、住み良い我が町小金原の基盤が形づくられてるのだと思います。

発足当時、渋谷会長の口癖は、「新生小金原が新しい住民と旧来の住民が共に仲よく暮らす町に成ってほしい」でありましたし、又、開発造成の基本目標とした「三無」つまり、音、煙、臭、の無い町の完成に大変満足されていました。更に又、縦横に走る広い道路や各所に点在する大小各種の公園など、町並の整備には多くの地主の方々の、並ならぬ減歩(公共用地への土地提供)承諾が有った事を知ってほしい。とも付言されたものでありました。

会員各位の地域活動ご尽力に感謝申し上げます。わが町誕生秘話の一つをご紹介します。